



たまやまと

第76号

令和5年4月1日発行

発行：社会福祉法人
多摩大和園

編集：広報委員会

印刷：(株)共同印刷所

〒207-0003 東京都東大和市狭山2-1264-5

TEL042-563-8181 FAX042-565-5170

<http://www.tamayamatoen.net>

さくら苑 春

国力の源泉としての我国人口は

● 新年度を迎え、皆様方の引き続きのご支援、ご協力をいただき多摩大和園のさらなる発展に努める決意を新たにしております。

● つい一ヶ月程前のマスコミに我國の2022年の出生数が八〇万人を割り込んだとの記事が大きく扱われていました。七年連続で、想定を上回るペースの減少とのことでした。また、一人の女性が生涯に産む子供の数（合計特殊出生率）も12台に落ち込む見込みであることも伝えてあります。因みに、時代背景などの違いもあり単純に比較できるものではありませんが、私が生まれた直後の47年～49年の「第一次ベビーブーム」時代の年間出生数は、約二七〇万人であり、出生率は4を超えていました。

● 出生数の急減は、現役世代の減少により、社会保障制度の支えを失い、制度そのものの維持を難しくしかねません。また、社会保障の基盤である日本経済の成長力にも多大な影響を与えることにもなります。

● 年金、医療、介護などの給付費の財源は現役世代が多くを拠出する保険料が半分以上を占めており、少子化により将来世代が減り、保険料の引き上げなど負担増が避けられない事態が考えられます。この結果、私たち高齢者にとって心配なことは、財源を高齢者施策から若者に対する施策に振り替えるという動きであります。こうならないためにも考えられる対策を総動員してでも少子化を食い止める努力を望むとともに「家事、育児は女性だけが担うものではない」など家庭内の考えを変えるなどし、是非とも若い世代の人々に家庭を持つことの希望を育ててもらいたいものです。

多摩大和園 理事長 川崎裕康

やまもと

令和5年4月1日



特養・ショートステイ

【クリスマス／十二月二十五日】

クリスマスランチを楽しみました。

【新年祝賀式／元旦】

コナ禍、新年をお祝いしました。



【節分会／二月三日】

【ひな祭り／三月三日】

【まぐろの解体／二月二十四日】

今年も二十五
キロのまぐろを
解体し、まぐろ
尽くしの夕食を
堪能しました！



サービスセンター

【年末年始】

【節分会／二月三日】



令和5年4月1日

さくら苑



【新年会】
新年会を行いました。職員の出し物や演奏に喜ばれていました。



【特養・ショートステイ】
新年の喜びをお祝いしました。おせち料理も好評でした。

【初詣】
近くの神社へ初詣に行き、甘酒を頂きました。



【初詣】
近くの神社へ初詣に行き、甘酒を頂きました。



【ふれあいデイサービス】
桃の節句にお雛様と一緒に記念写真を撮りました。



【節分会・ひな祭り会】
季節の行事を楽しみました。着物を着て記念撮影をしました。

【サービスセンター】

きよはら

令和5年4月1日

サービスセンター

【忘年会 十二月】

ハズレなしのビンゴ大会と職員の重ね着競争で盛り上がりました。



【新年祝賀会 一月】

新年初日にお屠蘇で乾杯、今年もまた宜しくお願いします。



【節分会 二月】

年男のご利用者と鬼の対決は見ものでした。



【誕生会 十二月・二月】

各月のお誕生者の方々です。



【きよはら 今後の予定】

サービスセンター

- 四月 お花見弁当・誕生会・利用者懇談会
- 五月 おやつ作り・誕生会
- 六月 手打ちうどん・誕生会・利用者懇談会

★新体制のご報告★

長きに亘り、多摩大和園に勤務し、法人の理事及びやまと苑の苑長を務めて参りました千坂真樹が、令和五年三月三十一日を以って苑長を退任し、当法人を退職いたしました。令和五年四月一日からの新たな体制につきまして、左記にご紹介いたします。引き続き、地域福祉に貢献するべく、役員一丸となって邁進いたします。

理事（新任）・さくら苑苑長（現任）

やまと苑苑長（新任）

きよはらセンター長（新任）

米持 尚利

鈴木 拓

伊藤 賢一

★ご家族・地域等との連携★

長らくコロナ禍も気付けば丸三年を超え、春の足音と共に、少しずつコロナ以前を取り戻すタイミングを迎えつつあります。

三月中旬には、マスクの使用が個人の判断に委ねられ、五月のゴールデンウィーク明けからは、感染症分類がインフルエンザと同様の五類に見直されることとなります。

当法人におきましても、徐々にではありますが、ご家族面会の正常化やボランティア活動の再開等に向けて、鋭意検討中です。

あらためまして、地域の皆様のご支援ご協力を賜りますよう、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。